

科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会（第2回）  
議事要旨

1. 日 時：平成23年4月22日（金）10：00～12：00
2. 会 場：日本学術会議 6-C（1）会議室
3. 出席者：柘植綾夫委員長、藤田英典副委員長、山本正幸幹事、青柳正規委員、荒川泰彦委員、井田良委員、今井浩三委員、上野耕史委員、内田伸子委員、木村茂光委員、楠岡成雄委員、片山倫子委員、谷口直之委員、野口伸委員、福住俊一委員
4. 話題提供者：清原洋一 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
5. 事務局：石原参事官、中島調査員 他
6. 資料：
  - 資料1 前回議事要旨（案）
  - 資料2 初等中等教育における理科の現状、課題及びその解決に向けて
  - 資料3 技術教育の現状、課題およびこれからの方向～教育行政の視点から
  - 資料3-1 技術教育の理解と推進のために 今、世界の技術教育は？
  - 資料3-2 特定の課題に関する調査
  - 資料4 参考文献一覧
  - 資料5 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会進め方について案
- 参考1 委員名簿
- 参考2 知識基盤社会を牽引する人材の育成と活躍の促進に向けて
7. 議 事：
  - 1) 前回議事要旨（案）について  
修正の上、了承された（会議中に修正版を配布）。
  - 2) 話題提供について  
清原先生から「初等中等教育における理科の現状、課題及びその解決に向けて」、上野委員から「技術教育の現状、課題およびこれからの方向～教育行政の視点から～」の話題提供が行われ、以下のような意見があった。  
・学問知がその範囲に閉じていて、臨床知に至っていない。社会での使用目的、使用条件を明確にした上で、ものづくりに取り組ませる必要がある。
  - 3) 今後の進め方、意見交換  
資料5に基づき、今後の進め方の説明が行われ、次回委員会で更に議論を深めることになった。特に、資料4の参考文献一覧における各文献の提言等から、本委員会として論点として掘り下げるべき「重要論点」数点を各文献登録者は抽出して記入することとした。追加参考文献の登録においても同様の「重要論点」も併せて記入することになった。  
これに伴う資料4の改定については、藤田委員が山本幹事、楠岡委員と連携してフォーマットを検討することとなった。  
この他、以下のような意見が出された。

- ・ 技術教育とも関連するが、家庭科の教育内容は広範にわたっており、物事の原理・仕組みおよび背景も分かっている必要があり、指導書等を頼りに教えられる科目ではない。必修科目として設置されているからには現行の教員養成のあり方には問題がある。理系の基礎学力、文系の基礎学力特に経済学、政治学、心理学などの多くの分野の専門家の指導を受ける必要がある。
- ・ 一見無駄に見えるのが教育であり、人材育成事業の可否を費用対効果で判断できるものではない。
- ・ 成績上位の子供を伸ばしていく教育と、成績下位の子供を含めトータルに子供を伸ばしていく教育とでは、課題や方法などの点で異なる面もあるが、双方ともに重要である。